

みのわだより

verde

「verde」とは、ポルトガル語で「緑の」という意味です。



ベルジ箕輪

ベルジ株式会社 有料老人ホーム ベルジ箕輪

発行責任者 総支配人 守田 昌史

支配人 高木 正幸

〒370-3104 群馬県高崎市箕郷町上芝 839-4
Tel 027-371-6610 / Fax 027-371-6613

E-mail minowa@e-verde.co.jp

URL <http://www.e-verde.co.jp>

(ホームページにてブログも更新しております。そちらも是非ご覧ください。)

11月の出来事



特定技能実習生

特定技能実習生4名が入職いたしました。お名前が難しいのでそれぞれに呼称で呼んでくださいと自己紹介。チョーさん、ピンさん、ミンさん、アウンさん。まだ流暢な日本語でのコミュニケーションは難しいところがありますが、とても真面目で礼儀正しい人柄です。遅れて下旬に2名が入職し合計6名の仲間が来ました。

感染症予防の為、ハロウィンイベントを急遽取りやめなければならなかった為、状況が改善したタイミングにてハロウィン改め解除祝い？のお菓子をプレゼント。色とりどりのワッフルケーキを特定技能実習生がご挨拶を兼ねて配りました。「ドレガヨロシイデスカ」「あんだこの国の人だい？」「ミャンマーカラキマシタ」「ミャンマー!!へー、また遠くから」「ヨロシクオネガイシマス」「宜しくね」頑張って覚えた日本語で皆さまと会話する姿を見守っていると、心から頑張って欲しいと大丈夫！OK！の good👍サインを送ります。そんな特定技能実習生の姿に皆さまも、孫を見守るかのような優しい眼差し。文化の違う異国の地、心細さがあると思います。それを凌駕する日々であって欲しいと願います。



ケーキ



たま入れ

「ジャパニーズスポーツたま入れ」箕輪のレクの長が特定技能実習生に初指導。玉入れはミャンマーにもあるようですが、日本の玉入れ文化を伝授。慣れない環境にずっと緊張していただろう特定技能実習生の笑顔を見て、さすがレク長！と思いました。皆さまの上腕、下肢運動になるだけではなく、『遊ぶ』に言葉の壁は関係ありません。友達が遊ぶ輪に「混ぜて」のひと言がなかなか言えない子供のような、そんなもどかしさを重ね見ていました「チョーさん頼んだ」籠をポンと渡すと、「ミナサンナゲテクダサイ」チョーさんが言いました。そこへ玉を投げずに、持ってきて、そっと入れてくれた皆さま。「ぶつかったら可哀想でしょ」と。ほのぼのとしました。一緒に笑う。それだけで距離がぐっと近くなります。考えるより飛び込め。だな、と思いました。



散歩

少し昔は外国の人へのプレゼントに折り紙が喜ばれていましたが、折紙は世界でも ORIGAMI として国によっては授業で教えているそうです。言葉のコミュニケーションがままならなくとも、試行錯誤しながら一枚の折紙をカタチにしていく作業で、皆さまとお互い助け合いながら、ポインセチアの花を折り上げました。「キレイに出来たね」皆さまが褒めました。壁面を彩るリースを眺める度、にんまりしています。

小春日和に特定技能実習生と古墳で有名な、上毛野はにわの里公園に。吉永小百合さん出演のJRのCMに登場した、広さ12.9ヘクタールの歴史公園です。園内には、国指定の保渡田古墳群、かみつけの里博物館、土屋文明記念文学館、土屋文明歌碑、山村暮鳥詩碑などがあり、日本で初めて目にした古墳や埴輪を、皆さまが「これはハニワ、あれはコフン」とレクチャー。日本の文化をガイドしながらの散歩もなかなか乙でした(*^_^*)



折紙とリース



クリスマスリースには、魔除け、豊作祈願、新年の幸福祈願の願いが込められています。ギザギザのヒイラギの葉には、災いから家族を守るものとしての意味があり、玄関に飾ることで家の中を守るという魔除けの意味があるそうです。同じようにクリスマスツリーにも冬でも葉が枯れ落ちない常緑樹が用いられています。永遠に枯れない命という意味があり、飾りには聖書に紐づく意味をもったものが多くあります。日本のしめ縄や門松と同じと考えるのは野暮でしょうか。



クリスマスツリー

ご家族へ皆さまのご様子をお届けさせていただくためにお写真を撮らせていただいております。それを写プライズと称して季節のアイテムや装飾を施し、季節のお便りとしてお届けできたら幸いと思い制作しております。室内では季節の移り変わりに気付きにくいこともありますので、職員がアイデアと技術をもって季節を感じていただけるように季節飾りを創作しています。



写プライズ



みのわ情報

対面面会が再開！

対面面会が再開の運びとなりました。入居者様との接触、ご飲食はご遠慮いただくなどのお願いを事前に通知させていただいております。ご予約の際には大変お手数ですが、ご一読いただきましてからお電話をお願いいたします。



新米



11月23日は新嘗祭の日。天皇陛下が稲を刈り、新穀を神祇に供進し収穫を感謝する儀式として有名ですね。新嘗祭の日まで新米を食べてはいけないという習わしがある地域もあるようですが、天皇陛下が新米をお召し上がりになられるのを待ってからという敬いからのようです。収穫に感謝する気持ちは新米に限らずですが、日本人の主食のお米はやはり特別。合掌礼拝。

編集後記

皆さまとクリスマスのアイテム作りをしていると、子供の頃のワクワクとしたクリスマスを思い出します。リースを作ろう、ツリーを作ろうと準備をし、松ぼっくりを拾ったり、材料を買いに行ったり。自分の為となると、絶対に飾りつけなど考えもしないので、良い機会をいただいているなといつも感謝します。クリスマスのはじめは、寒さが堪え辛い季節ですが、それを払拭する為にあるのかと思えるほど、街のどこでもクリスマスミュージックが流れ、赤や緑、ゴールドで装飾されたグッズを見ているだけで否が応でも楽しい気分になります。真っ赤なポインセチアが彩りを添えますが、手に取って眺めると何故ポインセチアは葉が赤いのだろうかと思いに思いました。まるで花のように赤くなり大輪の花のような苞も、まるで星のカタチのような葉も、緑と赤というカラーリングも。産国であるメキシコでは、ポインセチアは、ノーチェ・ブエナと呼ばれ、クリスマスイブという意味だそうです。まさにクリスマスの為には作られた植物のようですが一説には17世紀、メキシコに移り住んだ宣教師たちが、赤く色づくこの植物を見て「清純なキリストの血」を連想し、キリストの誕生祭の行列で使ったことからクリスマスに飾るようになったとか。そんなポインセチアは、寒さに弱い植物なんだそう。日光が当たる窓際などの暖かい場所に置き、温度が下がる夜間は部屋の中央に置き、根が傷まないように冬場の水やりは天気の良い日の午前中に。と育て方に書いてありました。花言葉は『祝福する』『幸運を祈る』まさに神様があつらえた植物ですね。